

昔ぬ沖繩をて、同ぬ村ぬ親ぬ定みたる相手とに一びちすしやいび一たん。他所ぬ村ぬっ人とか、また身分ぬ違える侍とぬに一びちや、考一らん事やいび一たん。

ある日、首里ぬ若さる侍山戸ぬ名護ぬ許田んかいぬ道、急じよ一いび一たん。

お一、うれしん暑さぬ。喉ぬ乾きて。お一、くれ一見事ぬ清ら水！お一、飲み欲さしが、手ぬ汚れて。

側んちゃくと、清らさるみやらびぬ水汲ど一いび一ん。

あんし、清らさるみやらび！

山戸や一目し、恋心抱ちゃびたん。

あの一、みやらびよ、水飲み欲さしが、くまね一ぬ一ぶぬ代わいないしらね一らん。手し掬いてしん、我一手や汚り一て。ど一でん、うんじゅぬ手し掬て、飲までとらんさんがや一。

初みて行逢る御方んかい、手水うさぎ一るくと一ないびらん。

昔から、手水や志情き通わする時にする習わちやいび一たん。

ま、待ってとらし。水し飲まちとらさんだれ一、我んね一くぬ川んかい飛び込もるくとんかいないん。

仕方ね一やびらん。あんせ一、くりし宜さいび一み。

ん、ん、ん。はあ一、な一ちけ一ん飲までくり。うんじゅぬ名や何んで？

あいえ一！う一。玉津んで言ちよいび一ん。

かんし、二人や思むよ一いる仲んかんないびたん。

やしが、玉津ぬ村をて、身分ぬ当らんに一びちや許さんくと。

玉津よ、百姓ぬ女ぬ分際し、御侍たぬかすんでっしえ一、恥知らや一。

村ぬ男んあらん、首里ぬ侍とまじゅんないい。胴ぬ丈知らんや一。

許さん！

あんし、玉津や浜をて打ち首んかいないびたん。

ど一でん、ど一でん、助けて呉みそ一り。っ人思いる心一誰が止み一るくとないび一が。

うぬ時、山戸やみやらびぬ打ち首あきらみしって、早馬かきたんでん。

玉津、なましぐに助きがしぐと、ちゃ一がな間に合てくり。

(以下略)